

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

| 学校名 | 埼玉県立皆野高等学校 | Bグループ |
|------------|--|---|
| 項目 | 調査の観点 | 取組状況に関する所見 |
| 目指す学校像 | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。 | 今年度、目指す学校像を「ビジネス社会で通用する人材を育成」から「活躍する人材を育成」に変更するなど、卒業生の活躍状況、専門学科の趣旨や特性を踏まえたものとなっている。今後は、現状や課題などをより広く把握・分析し、更に具体的かつ魅力あるものになるよう検討していただきたい。 |
| 重点目標 | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。目指す学校像を踏まえ、生徒の主体的な学習への取組など、学校が取り組むべき課題が明確かつ具体的に示されており、日々の教育活動の指針となっている。 |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。 | 評価運営委員会と分掌・学年・教科が連携し、学校自己評価システムが運営されている。学校全体のシートと分掌・学年・教科のシートの連鎖が分かりにくいことから、評価項目を合わせるなど本システムが十分機能するように工夫していただきたい。 |
| | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。 | 評価運営委員会で現状を分析し、その要因を見いだそうと取り組んでいる。評価指標が、評価項目の達成度を決定する上で、客観的に判断しやすいものとなるよう、取組指標と成果指標をうまく組み合わせ設定することが望まれる。 |
| | 校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。 | 校長は着任早々、分掌主任等と意見交換を行い、学校の現状と課題を把握した上で、明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長がリーダーシップを的確に発揮し、分掌・学年・教科などが全体の目標を理解した上で、適切に連携して全校を挙げて取組を行っている。 |
| | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。 | アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。アンケートの分析結果や学校関係者の意見等を有効に活用して達成状況や課題を把握し、次年度の具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにしていただきたい。 |
| 特記事項 | | |